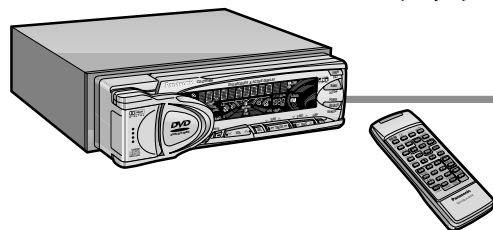


Panasonic

アクティブディスプレイ DVD サウンドステーション

取扱説明書



品番

CQ-DVR909D



DVD
AUDIO / VIDEO

VIDEO CD

COMPACT
disc
DIGITAL VIDEO

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

DOLBY
DIGITAL
DOLBY SURROUND

DIGITAL
dts
SURROUND

保証書別添付

このたびは、パナソニック カーオーディオをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

そのあと保存し、必要なときにお読みください。

保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

特長

6chサラウンド再生 (DVDオーディオ) 対応

センター (1ch) / フロント (2ch) / サラウンド (2ch) のアンプを搭載しているため、サブウーファー (1ch) とシステムアップするだけで6chサラウンド再生が可能です。非圧縮の高音質リニアPCM方式の6chサラウンド再生では、車室内がライブ会場になったようなリアルなサウンドを楽しめます。

DVDオーディオのフォーマットなどについては、今後変更になることがあります。

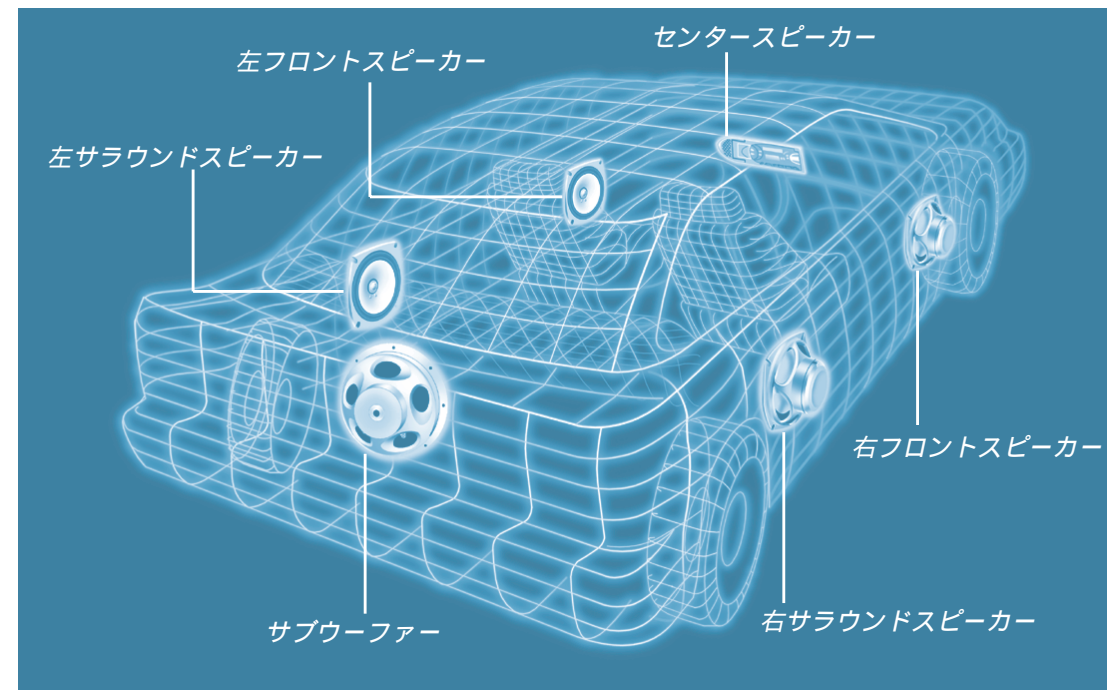
5.1chサラウンド再生 (DVDビデオ) 対応

センター (1ch) / フロント (2ch) / サラウンド (2ch) のアンプを搭載し、新開発AVデコーダーが標準装備されているため、サブウーファー (0.1ch)、TVモニターとシステムアップするだけで、ドルビーデジタル/dtsの5.1chサラウンド再生が可能です。

5.1chそれぞれから独立して再生されるサウンドにより、車室内が映画館になったようなリアルなサウンドを楽しめます。

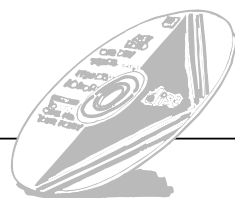
センタースピーカー搭載

ヴォーカルなどの中高音域をより鮮やかに再生するセンタースピーカーを搭載しているため、DVDのマルチチャンネル再生のときにも、別売のセンタースピーカーを取り付ける必要はありません。



ご使用前に

再生できるディスク



ディスク	マーク (ロゴ)	ディスクの大きさ	映像方式	リージョン番号
DVDオーディオ		12 cm	NTSC	
DVDビデオ			NTSC	2 ALL
ビデオCD		8 cm	NTSC	
CD				



本機で再生できるリージョン番号 (国ごとに割り当てられた番号) は、「2」(または2を含むもの) と「ALL」です。
DVDビデオディスクに表示されているリージョン番号が本機と一致しないと本機では再生できません。



下記のディスクは、本機で再生できません。
DVD-ROM DVD-R/DVD-RAM CD-ROM VSD CDV CD-G
SACD フォトCD CD-R () 一部のDTS CD CD-EXTRA (音声のみ再生可能)
リージョン番号が「2」または「ALL」以外のDVD
PAL方式で記録されたディスクなど
(ディスクの読み取り方式の違いにより、CD-Rは再生できません。)

安全上のご注意



必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は、絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

運転者は走行中に操作をしない
また画像を注視しない



禁止

走行中の操作は、前方不注意による交通事故の原因になります。安全な場所に停車し、操作してください。表示された画像を注視しないでください。

取り付け・アース配線等に、保安
部品を使わない



禁止

ステアリング・ブレーキ系統・タンク等の保安部品のボルト・ナット・ビスを使用すると、事故の原因になります。説明に従い、付属品をご使用ください。

注意

分解や改造をしない



分解禁止

分解や改造、コードの被覆を切って、他の電源を取るのをやめてください。発煙・発火、感電、故障の原因になります。

故障や異常のまま使用しない



禁止

音が出ない、煙が出る、変なにおいがする等の異常な状態で使用すると、発火・感電の原因になります。直ちに使用を中止してお買い上げの販売店にご相談ください。

機器内部に異物を入れない



禁止

内部に金属物や燃えやすいもの等の異物が入ると、ショートや絶縁不良で発熱し、発火・感電・故障の原因になります。特に乳幼児にご注意ください。

水をかけたり、ぬらしたりしない



水ぬれ禁止

内部に水が入るとショートや絶縁不良で発熱し、発火・感電・故障の原因になります。洗車や雨のときに水がかからないようご注意ください。

ヒューズの交換は専門技術者に
依頼する



規定以外のヒューズを使用すると、発煙・発火、故障の原因になります。ヒューズの修理や交換は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

DC12Vアース車で使用する



本機はDC12Vアース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など（DC24V車）には使用できません。ショートして発火や故障の原因になります。

可動部やディスク挿入口に手・指を
入れない



禁止

可動部やディスク挿入口に手・指を入れると、けがや故障の原因になります。特に乳幼児にご注意ください。

特殊形状のディスクやディスクア
クセサリは使用しない



禁止

ハート型や八角形など特殊形状のディスクや、プロテクトフィルムやスタビライザーなどのディスクアクセサリを使用すると、故障の原因になります。

適正な音量で使用する



車外や周囲の音が聴こえない状態での運転は、事故の原因になります。

⚠ 注意

取り付け・配線は専門技術者に依頼する



本機の実取り付け、配線には専門技術と経験が必要です。安全のため、お買い上げの販売店にご依頼ください。

配線作業中はバッテリーの⊖端子を必ずはずす



説明に従って正しく配線しないと、ショートによる感電やけが、および発火や故障の原因になります。

運転や乗り降りを妨げたり、破損しないようにコードを引き回す

運転や乗り降りを妨げられると、事故やけがの原因になります。コードが傷んだまま使用すると、ショートや断線により、発火や故障の原因になります。



傷つける、無理に引っ張る、折り曲げる、ねじる、束ねる、加工する、熱器具へ近づける、重いものをのせるなどしない。
車体やねじ、およびシートレールの可動部にはさみ込まないよう整形し、固定する。
ステアリング・シフトレバー・ブレーキペダル・足等に巻き付かないよう、引き回す。

電池は正しく扱う

電池を正しく扱わないと、破裂や液もれにより、発熱・発火、けがや故障、周囲を汚染する原因になります。



電池は極性表示(⊕と⊖)を確かめて、指示どおり正しく入れる。
指定外の電池を使ったり、新・旧電池や違う種類の電池を一緒に使用しない。
使いきった電池は、すぐに交換する。
リモコンを長時間使用しないときは、電池を取り出しておく。
電池を廃棄や保存するときは、テープを巻きつけたり、ビニール袋などに入れて絶縁する。
充電・ショート・分解・変形・加熱・火や水の中に入れる・金属物と接触させるなどしない。
窓を閉め切った車の中、車のトランクの中、直射日光のあたるところ、ヒーターの近くなど、著しく温度が高くなるところに電池や電池の入ったリモコンを放置しない。
乳幼児の届くところに置かない。万一飲み込んだ場合は、すぐに医師にご相談ください。

電池の液もれが発生した場合の処置について

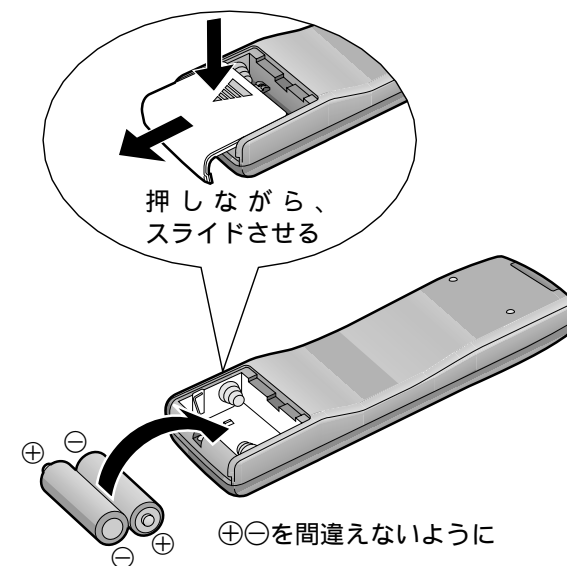
電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。
もれた液が身体や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。
万一、目に入ったときは、こすらずにすぐ水で洗い流し、医師にご相談ください。

付属品の確認

取扱説明書	1
操作早見表	1
配線用付属品	一式(62ページ)
取り付け用付属品	一式(66ページ)
リモコン	1
単3形乾電池(R6PU)	2
保証書	1
お客様ご相談窓口一覧表	1

リモコンの準備

電池の入れかた



電池の交換

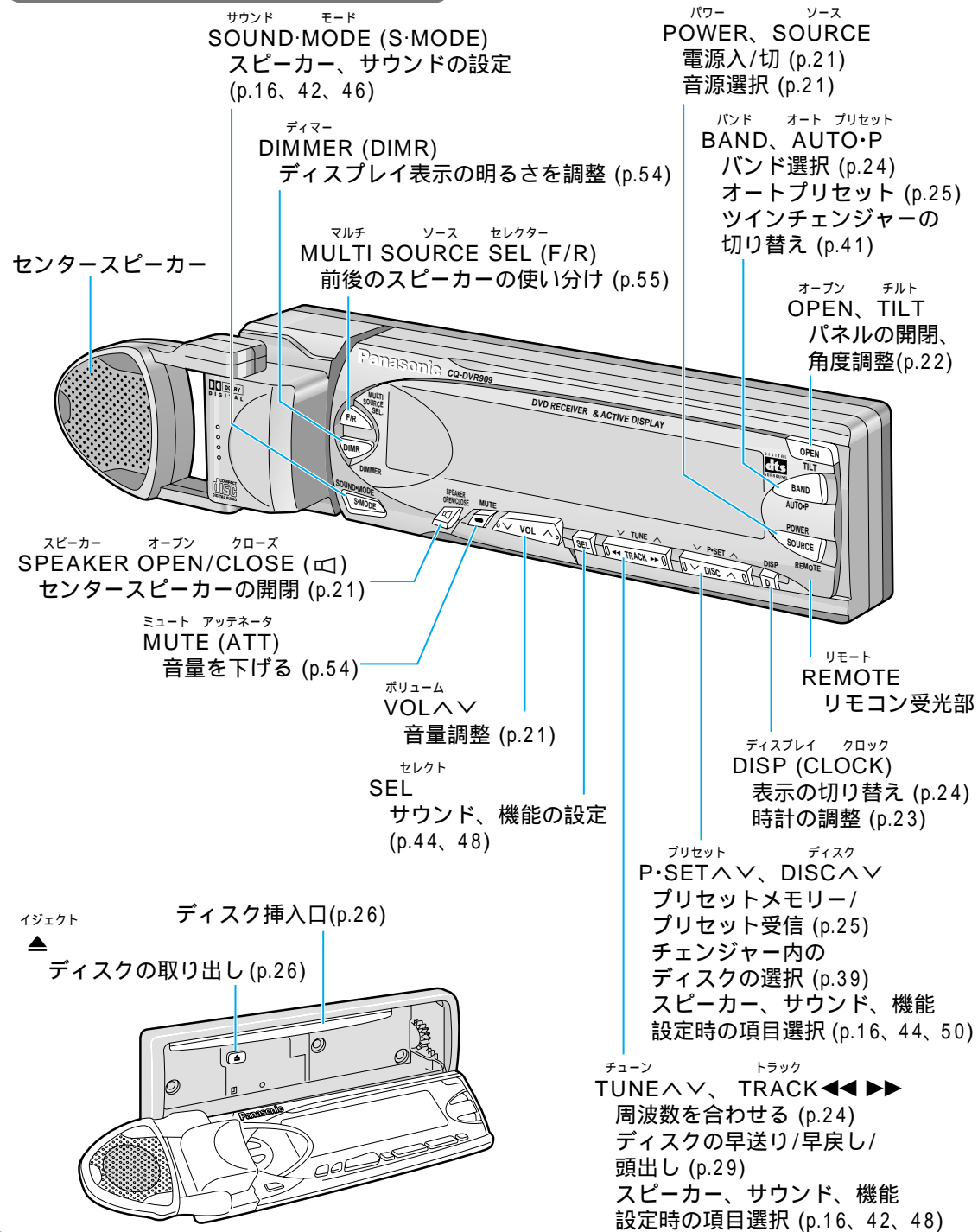
左ページの「電池は正しく扱う」にしたがって交換してください。

使用電池	: 単3形乾電池(2個)(R6PU)
電池寿命	: 通常の使用状態で約5ヶ月 (マンガン乾電池/常温時)

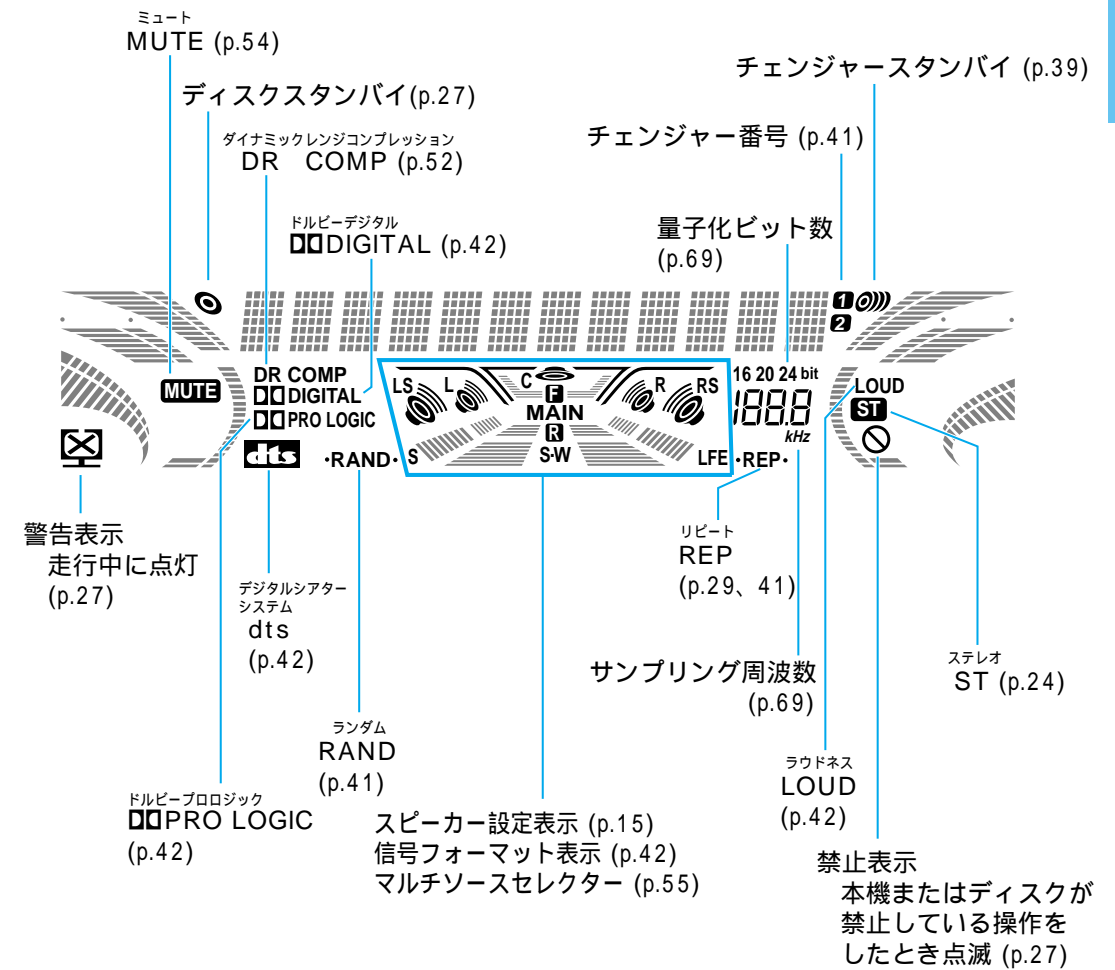
各部のなまえ

本体

前面部



ディスプレイ部

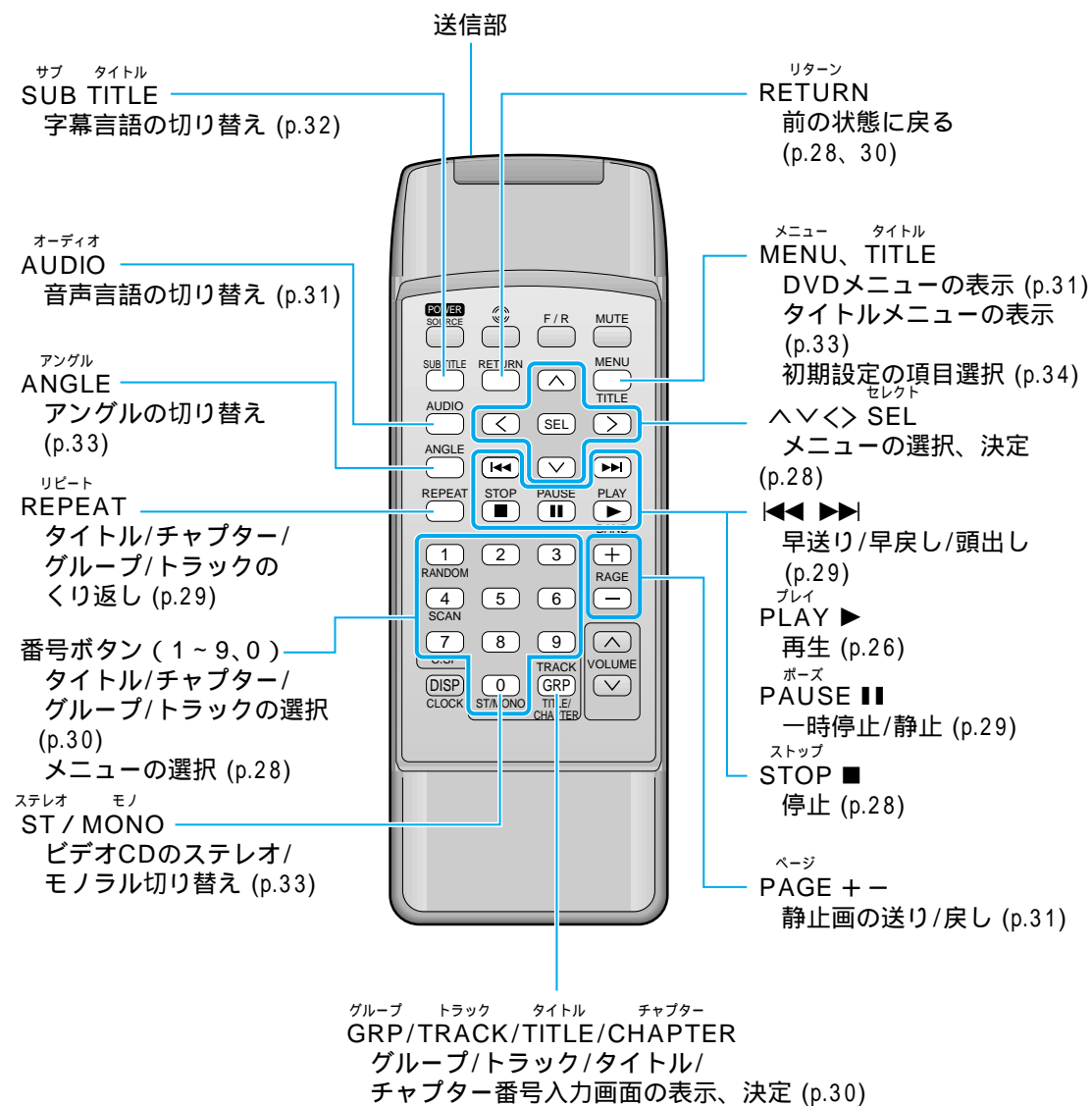


各部のなまえ

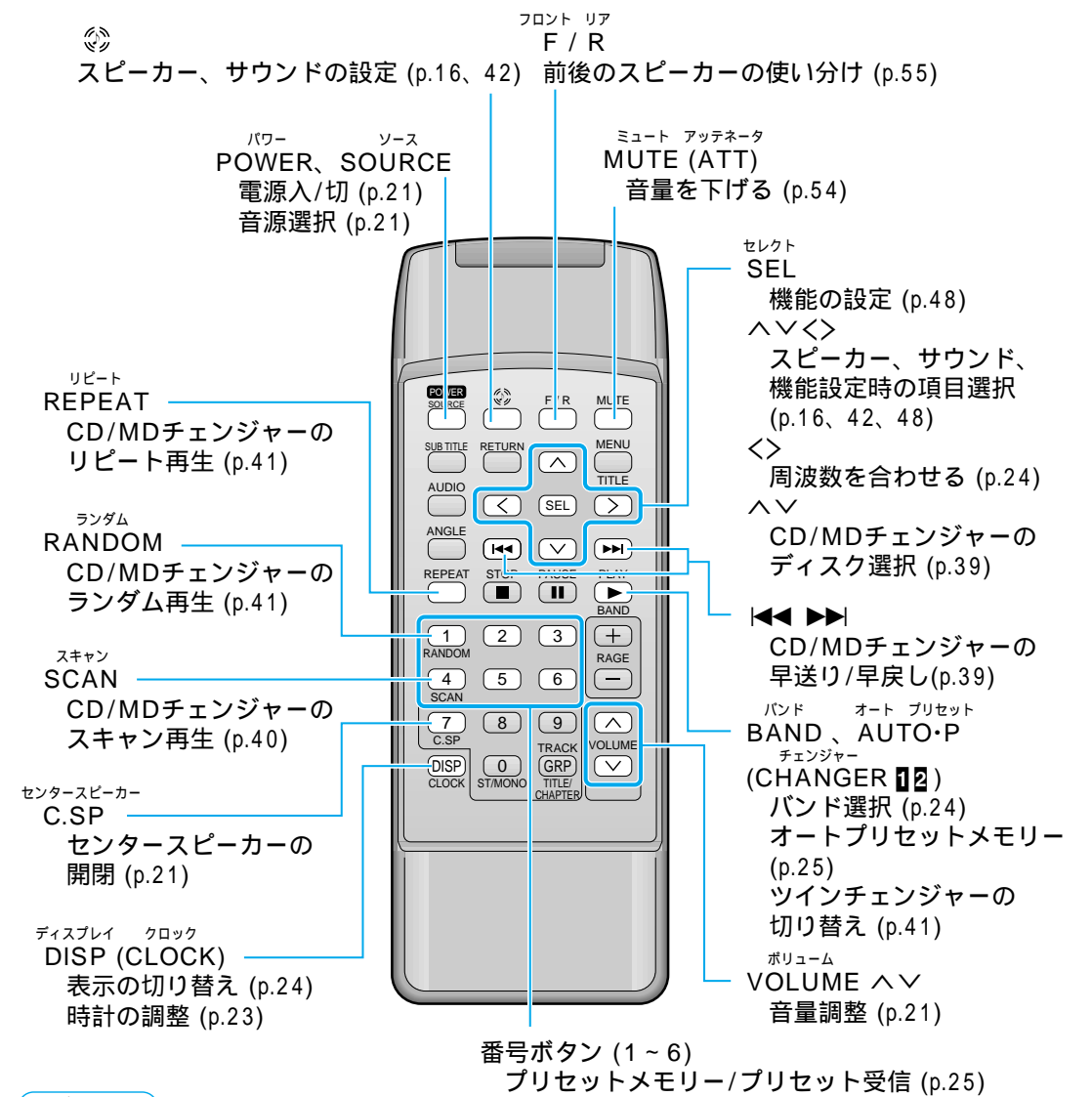
リモコン

本体のリモート（リモコン受光部）に向けて、操作してください。（p.10ページ）
リモコンの操作は、停車して、明るい場所で行ってください。

DVDオーディオ・ビデオ/ビデオCD/CDの操作で使うボタン



左記以外の操作で使うボタン



お知らせ

リモコンには下記のボタンがありません。本体で操作してください。

- ・ OPEN、TILT
- ・ DIMMER

操作の流れ

「準備」で必要な項目を設定してから、「基本操作」、「応用操作」を行ってください。

設定できる項目は ○、設定できない項目は×で表しています。

準備

	設定する項目	DVD オーディオ	DVD ビデオ	ビデオCD	CD	ラジオ/ チェンジャー/ AUX
スピーカー の準備	SP TYPE SEL	○	○	○	○	○
	SP LEVEL SEL	○	○	○	×	×
	SP DELAY	○	○	×	×	×
初期設定を 変更する	TV SELECT	○	×	×	×	×
	TV ASPECT	○	○	○	×	×
サウンドを 設定する	DOWN MIX SEL	○	○	×	×	×

SP TYPE SEL : スピーカーの種類・有無を設定する (P.16ページ) TV ASPECT : テレビのアスペクト比 (P.36ページ)
 SP LEVEL SEL : スピーカーの出力レベルを調整する (P.18ページ) DOWN MIX SEL : スピーカー出力を合成する (P.42ページ)
 SP DELAY : スピーカーのディレイ時間を調整する (P.18ページ) サラウンドスピーカーを接続していないとき
 TV SELECT : テレビの接続設定 (P.36ページ) (ドルビーデジタル/dtsのソフトのみ)

基本操作

	DVDオーディオ	DVDビデオ	ビデオCD	CD	ラジオ/ チェンジャー
参照ページ	(P.26ページ)	(P.26ページ)	(P.26ページ)	(P.26ページ)	(P.24ページ) (P.38ページ)

応用操作

	設定する項目	DVD オーディオ	DVD ビデオ	ビデオCD	CD	ラジオ/ チェンジャー/ AUX
サウンドを 設定する	DR COMP SEL (P.52ページ)	○	○	×	×	×
	PROLOGIC SEL (P.42ページ)	○	○	○	○	○
	LOUD SEL (P.42ページ)	○	○	○	○	○
	BASS SEL (P.44ページ)	○	○	○	○	○
	TREBLE SEL (P.44ページ)	○	○	○	○	○
	BAL // FAD (P.44ページ)	○	○	○	○	○
	CENTER VOL (P.46ページ)	○	○	○	○	○
	SUB•WFR VOL (P.46ページ)	○	○	○	○	○

(ドルビーデジタルのソフトのみ)

スピーカーの準備

使用するスピーカー

フロントスピーカー
運転席と助手席のドア埋め込み型のスピーカーを使用します。

サラウンドスピーカー
車後部の左右スピーカーや後部埋め込み型のスピーカーを使用します。

センタースピーカー
本機に内蔵のスピーカーを使用します。(推奨)
別売のものを使用するときは、車のセンターコンソール付近、またはダッシュボードの中央近くに設置します。

サブウーファー
音の定位が他のスピーカーほど設置する位置に左右されないで、お好みの場所に設置して使用します。(サブウーファー用のアンプが別途必要です)

お知らせ

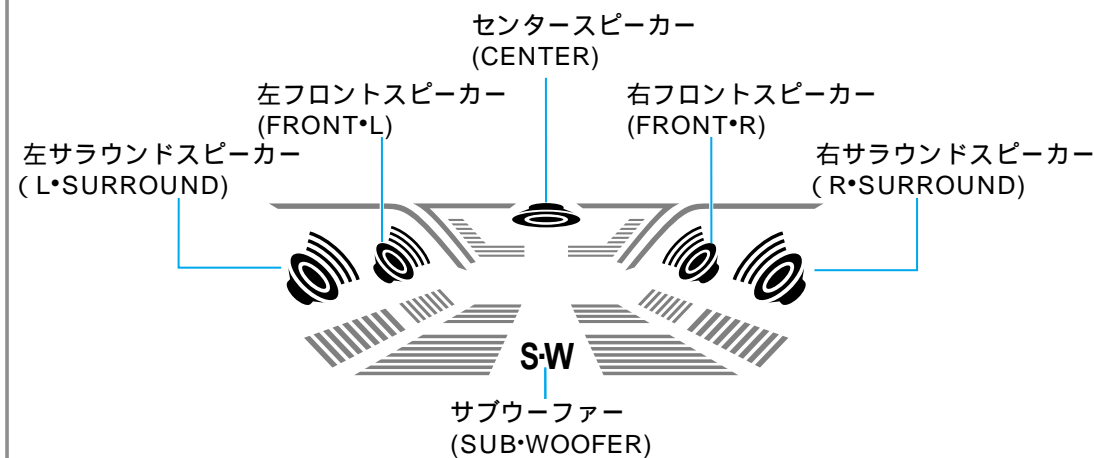
サラウンドスピーカーやサブウーファーを取り付けずに本機を使用する場合は、スピーカーシステムに合わせて本機のスピーカー設定を行ってください。

スピーカー設定の手順

サラウンドを正確に再現するために、はじめに以下の手順でスピーカーの設定・調整を行ってください。

1. スピーカーの種類・有無を設定する (P.16ページ)
 2. スピーカーの出力レベルを調整する (P.18ページ)
 3. スピーカーのディレイ時間を調整する (P.18ページ)
- 1~3を設定したあと、「サウンドを設定する」の各項目を設定してください。(P.42ページ)

スピーカー設定表示



ご使用前に

スピーカーの準備


☆ 設定の項目は、以下のように切り替わります。(* ドルビーデジタルのソフトのみ)
 通常モード → DR COMP SEL * → **SP TYPE SEL** → (停止中) SP LEVEL SEL → SP DELAY

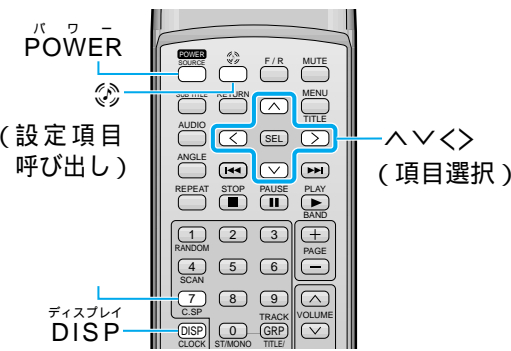
本説明書は、リモコンでの操作を中心に説明しています。

リモコンと本体とで操作方法が違う場合は、両方記載しています。

本体のみで操作する場合には、右のように表示しています。

本体のみ

準備 : **POWER** (SOURCE) を押して、電源を入れる。
C.SP (7) を押して、センタースピーカーを開く。(本体の場合は )





パワー
POWER
(設定項目呼び出し)

ディスプレイ
DISP









↑ ↓ ◀ ▶ (項目選択)

1 項目を選び、

①  を2秒以上押す。
 ②  を押して、項目を選ぶ。
 (本体の場合は **S・MODE**)

設定の項目は、右上(☆)のように切り替わります。

2 設定する

①  を押して、スピーカーを選ぶ。
 ( : 逆回り、本体の場合は  )
 ②  を押して、種類・有無を設定する。
 ( : 逆回り、本体の場合は  )
 ①②をくり返して、全てのスピーカーの種類・有無を設定してください。
 設定中のスピーカーアイコンが点滅します。

お知らせ
DISP を押すと、通常モードに戻ります。(設定が完了します)
 約10秒間何も操作しないと、通常モードに戻ります。(設定が完了します)
 “OPT・C”(別売センタースピーカー)を“SMALL”または“LARGE”に設定すると、本機のセンタースピーカーからは音ができません。

スピーカーの種類・有無を設定する

初期設定

フロント	: LARGE
オプションセンター (別売センタースピーカー)	: NONE
サラウンド	: LARGE
サブウーファー	: YES

SP TYPE SEL

を選び

FRONT : LARGE

↕ ②

FRONT : SMALL

OPT・C NONE

↓ ②

OPT・C LARGE

↓ ②

OPT・C SMALL

SUR : LARGE

↕ ②

SUR : SMALL

SUB・WFR : YES

↕ ②

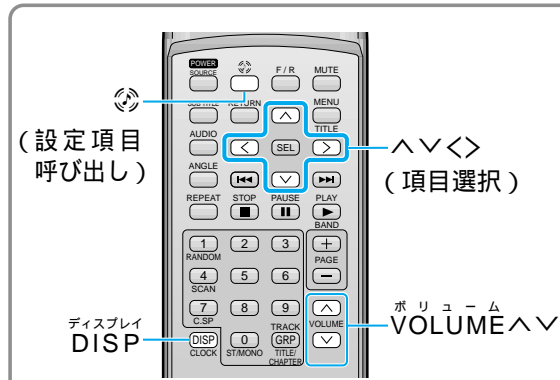
SUB・WFR : NO

(フロント) (オプションセンター) (サラウンド) (サブウーファー)

LARGE : 大型のスピーカー。低音再生が可能なき。(100Hz以下が目安)
 SMALL : 小型のスピーカー。低音再生が不可能なき。
 NONE : 別売センタースピーカーを使用しないとき。
 YES : サブウーファーを使用するとき。
 NO : サブウーファーを使用しないとき。

ご使用前に

スピーカーの準備



1 項目を選び、

スピーカーの出力レベルを調整するときは、ディスクモードで停止してから操作してください。(26、28ページ)

- ① を2秒以上押す。
- ② を押して、項目を選ぶ。
(本体の場合は **S*MODE**)

設定の項目は、右上(☆)のように切り替わります。

2 設定する

- ① を押して、スピーカーを選ぶ。
(: 逆回り、本体の場合は)
- ② を押して、調整する。
(本体の場合は **DISC** **DISC**)

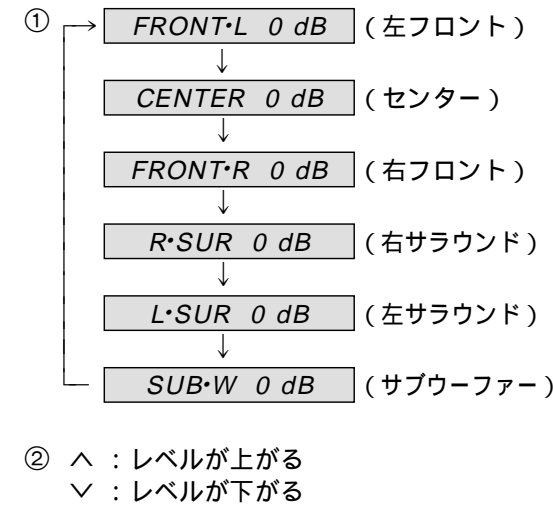
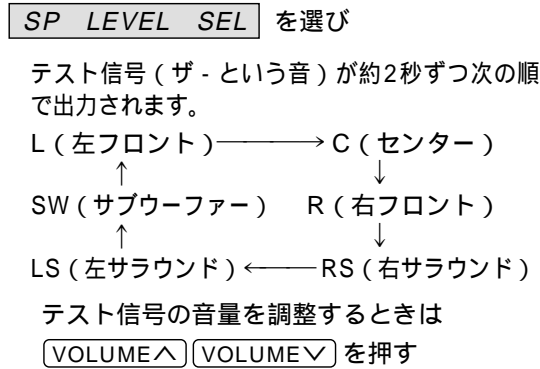
①②をくり返して全てのスピーカーを調整してください。
 設定中のスピーカーアイコンが点滅します。

お知らせ
 を押すと、通常モードに戻ります。(設定が完了します)
 約10秒間何も操作しないと、通常モードに戻ります。(設定が完了します)
 (スピーカーの出力レベル調整時は、18秒間)

スピーカーの出力レベルを調整する

テスト信号を使って、各スピーカーの音量が同じレベルに聞こえるように調整します。

初期設定：0 (dB)
 調整範囲：0 ~ -12 (1dB ごと)



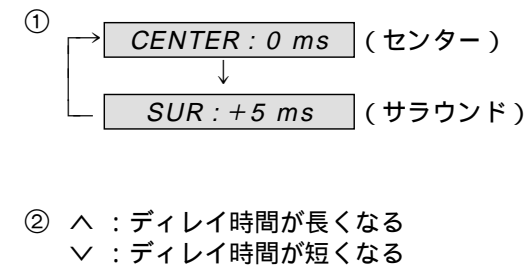
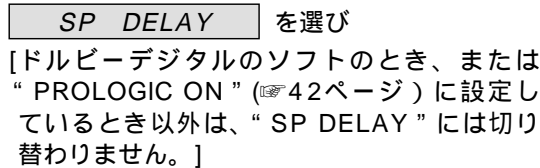
お知らせ
 センタースピーカー、サブウーファーは、サウンド設定でも音量レベルが調整できます。(46ページ)
 (“ -∞ ” に設定したスピーカーからは、テスト信号が出力されません。)
 テスト信号の音が一番小さく聞こえるスピーカー位置を基準レベルとして、他のスピーカー音量を小さくする方法で調整すると、比較的やりやすい場合があります。

スピーカーのディレイ時間を調整する

フロントスピーカーから視聴位置に音が届くまでの時間に合わせて、センタースピーカーとサラウンドスピーカーの出力に時間差(ディレイ時間)を与えます。(調整は、実際のソフトを再生しながら、行ってください。)

初期設定：
 センタースピーカー 0 ms
 サラウンドスピーカー +5 ms

調整範囲：
 センタースピーカー 0 ~ +4 (1 ms ごと)
 サラウンドスピーカー 0 ~ +15 (5 ms ごと)



お知らせ
 ドルビーデジタルのソフトを再生中のみ、センタースピーカーの調整ができます。
 “ PROLOGIC ON ” (42ページ) に設定しているときは、サラウンドスピーカーのみの調整ができます。